

シンポジウム メディアと虐待

——ドラマ『明日、ママがいない』が投げかけたもの——

日時：5月25日(日) 13:30～16:30
場所：日本子ども家庭総合研究所4階研修室

本年1月に放送が開始された『明日、ママがいない』には、関係各団体から抗議文等が寄せられ、本学会も、子どもの心身に重大な影響を与える危険性が高いとして一定の措置を講じるよう日本テレビに要望しました。こうした抗議や要望に対して、日本テレビは「最後まで番組を見てほしい」と主張し、3月に全9話の放送が終了しました。

本ドラマは、上記のように、特に不適切な養育を受け児童養護施設等で暮らす子どもの心身に重大な影響を与え、メディアが社会的弱者である子どもを「虐待」(乱用)した可能性があります。しかし一方では、児童養護施設での生活経験のある方が、「ドラマの台詞を聞いて溜飲が下がった」といった旨の意見を新聞投書欄に寄せたり、児童養護施設で暮らす子どもがドラマの視聴をきっかけに自らの家族関係を見つめ直したりなど、肯定的な影響があった可能性も否定できません。また、子ども虐待の問題に効果的に取り組んでいくためには、メディアとの協働は不可欠だと言えます。

こうした認識に立ち、本学会では、本ドラマの問題をひとつの契機として、メディアと子ども虐待の関係を考えるためのシンポジウムを企画いたしました。シンポジストには、本学会や全国児童養護施設協議会の代表者に加え、メディア論の専門家、子ども虐待の問題に取り組んできた報道人、そして児童養護施設等での生活経験のある当事者の参加を予定しています。単にドラマの是非を問うのではなく、子ども虐待防止に向けたメディアの役割を考える機会にしたいと思っておりますので、是非、ご参加ください。

シンポジスト

- 奥山真紀子：日本子ども虐待防止学会副理事長
- 武藤素明：日本子ども虐待防止学会代議員／全国児童養護施設協議会副会長
- 大久保真紀：朝日新聞社編集委員
- 水島宏明：法政大学社会学部教授（メディア論）・元日本テレビディレクター
- 渡井隆行：特定非営利活動法人 社会的養護の当事者参加推進団体日向ぼっこ代表理事

参加費：JaSPCAN 会員 1,000 円 非会員 1,500 円

定員数：120 名（先着順）

事前申し込み方法：件名に「メディアと虐待」シンポ参加希望とご記入の上、お名前、所属先、連絡先メールアドレスを記載してメールをお送り下さい。（メールのお送り先：info@jaspcan.org）

アクセス：日本子ども家庭総合研究所

【地下鉄 Subway】

東京メトロ日比谷線広尾駅（1番出口）下車徒歩8分（有栖川宮記念公園 / 都立中央図書館隣り、麻布学園正面）

【バス Bus】

JR山手線目黒駅バス停から「橋86系統」（新橋駅 / 東京タワー行き）乗車「愛育病院前」下車（所要時間約15分）

